

「茶山園地 植栽計画」

公開日令和4年(2022)4月 奈良県ホームページで公開

奈良公園植栽計画は、奈良公園の植栽のあるべき姿を示し、適切な植栽の整備と管理を行うための方向性を定めることを目的として平成24年度から着手した。

茶山園地は奈良春日野国際フォーラムの東側、若草山麓に至る傾斜地に位置し、昭和14年(1939)に若草山麓自動車道路が開通し、その後、春日野から若草山に向かう歩行者園路が整備された。昭和55年(1980)頃まではマツ類主体であったが、現在は広葉樹が主体となっている。(下パネル)写真では、若草山からの眺めで茶屋苑池周辺の松林ならびに旧公会堂(～1983)が確認できる。

(2)歴史的な経緯

4)航空写真で見る変化

・計画対象地は、1980年頃まではマツ類主体であったが、現在は広葉樹が主体となっている。

1961年6月

国土地理院の航空写真を加工



1979年9月

国土地理院の航空写真を加工



2008年5月

国土地理院の航空写真を加工



右写真

若草山からの眺め
茶山園地周辺の松林
ならびに旧公会堂(～
1893)が確認できる。
写真：奈良県立図書情
報館蔵



計画方針「サクラと眺望を楽しみつつ若草山に向かう場として、植栽・景観を保全・継承する。」

計画対象地の植栽・景観は、各ゾーンそれぞれに特徴があるが、奈良公園の中でも特に大きく生育したナラノヤエザクラ等が主体となったサクラ林と、若草山に向かう歩行者のメイン園路等から楽しむ景色や眺望は、奈良公園の魅力を高める主要な要素である。

本計画では、この魅力を活かした植栽・景観を保全・継承するため、次の2つの主要課題に取り組む。

主要課題1：サクラ林の景観演出

- サクラ林の景観の改善
- サクラ類の生育環境の改善
- サクラ見本園と連続したサクラの景の演出

主要課題2：若草山や生駒山系等への眺望確保

- 生駒山系等への眺望確保
- 若草山が見え隠れする眺望の保全